

土耕小ネギ栽培における冬期増収のための栽培基準見直し

農業研究部

1. 研究の背景

1～2月は、夏期に次ぐ高単価時期でありながら、播種面積の確保が難しいこと、生育期間が長くなることなどから、年間で最も出荷量が減少し需要に対応できていない。そこで、冬期増収のために慣行の冬期栽培技術を見直す必要がある。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

・10～11月播種、1～2月収穫の冬期作型で、従来より増収となる栽培基準を明らかにした。

- ・品種は「若殿」とする
- ・播種量を従来よりも増やす。ただし、上限は1000粒/㎡程度（多いと葉鞘が細くなる）
- ・施肥量は従来どおり、N=1.8kg/a
- ・生育後期（70日頃）に追肥をする
- ・追肥に適した窒素形態はアンモニア態窒素。特に硫加磷安が優位だが、硫安でもよい

表1 冬期栽培基準の見直し内容

	従来の栽培	見直した基準
品種	「冬彦」	「若殿」
播種量	600粒/㎡	1000粒/㎡
施肥量	N=1.8kg/a	N=1.8kg/a
施肥方法	全量基肥 葉色が薄い場合、 適宜追肥	基肥：追肥 = 7：3 追肥は生育後期 (70日ごろ)

※目標とする
M規格品質…
一本重 5g
葉鞘径 4mm

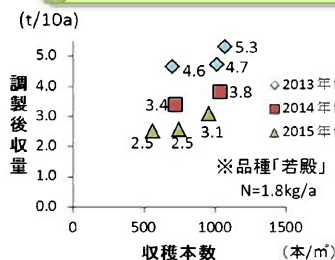


図1 播種量と収量

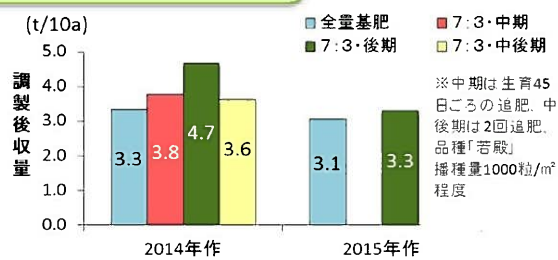


図2 施肥方法と収量

注) ●2013年作：播種10/10 収穫 1/27 (109日) ●2014年作：播種10/15 収穫 1/30 (107日)
●2015年作：播種10/15 収穫 1/13 (90日) 追肥は硫安

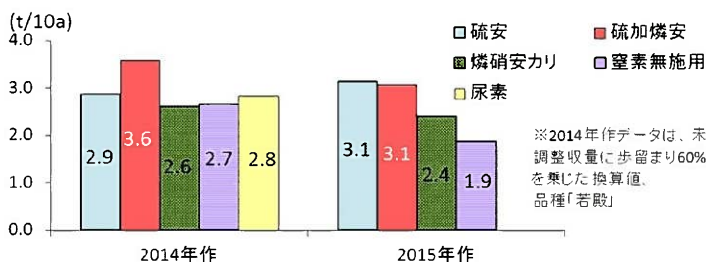


図3 追肥の種類と収量

注) ●2014年作：
播種10/20
追肥12/8 (50日)
収穫1/20 (93日)
●2015年作：
播種10/15
追肥12/21 (68日)
収穫1/25 (103日)

3. 期待される効果

・1～2月期の出荷量増加と、年間出荷量の平準化。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 葉根菜類・茶業チーム、土壌・環境チーム
TEL: 0974-28-2082、28-2072
住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8